

病害名：キク茎えそ病

病原ウイルス：キク茎えそウイルス(*Chrysanthemum stem necrosis virus* ; CSNV)



葉のえそ症状



茎のえそ症状



葉の退緑症状



茎の湾曲症状

CSNV による病害は、アスター・キク・トルコギキョウ茎えそ病が報告されている(2011年2月現在)。ここでは本県で2010年に発生が確認されたキク茎えそ病について述べる。

1 被害の特徴と診断のポイント

・本ウイルスに感染したキクの症状は、品種によって異なるが、葉の退緑やえそ症状、茎のえそ症状や湾曲を生ずる。*Tomato spotted wilt virus* (TSWV) によるキクえそ病による症状と酷似しており、病徴からの診断は難しい。

2 伝染源及び伝染方法

- ・本病は主にCSNVを保毒したミカンキイロアザミウマによって媒介される。
- ・幼虫時に感染植物を吸汁することによりウイルスを保毒し、終生ウイルスを伝搬する。(永続伝搬)
- ・経卵伝染、種子伝染、土壌伝染はしないと考えられる。
- ・罹病株を親株に用いた挿し穂による栄養繁殖でも伝染する。
- ・寄生宿主は雑草など広範囲にわたる。

3 発病・伝染好適条件

- ・ミカンキイロアザミウマによって媒介されるため、増殖に好適である高温で発生が多くなる。

4 防除方法

- ・本ウイルスの媒介虫であるミカンキイロアザミウマの防除を徹底する。
- ・罹病株は伝染源になるので、見つけ次第抜き取り、土中深く埋めるなど適切に処分する。
- ・ほ場内外の雑草はCSNVの宿主や、ミカンキイロアザミウマの増殖源となるため、除草を行い、環境整備に努める。
- ・施設開口部を寒冷紗や防虫ネットで被覆し、ミカンキイロアザミウマの侵入を防ぐ。
- ・栽培終了後は施設を密閉し、ミカンキイロアザミウマを死滅させ、施設外への分散を防ぐ。

5 出典

(1)参考：農業生物資源ジーンバンク (2)写真：宮城県病害虫防除所撮影